



東中生躍動

ものごとには、終わりがあるのだと思います。中学の教師をしていると、卒業式が近づくと、行事を迎えて「最後の、、、」といった言葉を耳にするたびにそう思います。でもだからこそ、そこにたどり着くまでの時間を精一杯取り組むことが大切なのだと思います。そして、そうすることが、その次につながる、未来と結びつけることなのだと思います。

6月17日(金)、18日(土)、甲府市総合体育大会が実施されました。3年生にとっては、最後の市総体です。無事2日間実施できたことを、本当にうれしく思いました。各会場に分かれての大会でしたが、どの会場でも東中生の躍動する姿が見られました。ふり返ってみると順風満帆の部活動ではなかったように思います。コロナ禍で練習のできない時期もありました。仲間と気が合わないことや、顧問の先生の突然の異動、不安になることもありました。でも、そういったことをのりこえ、その経験を成長の糧として、活躍する東中生の姿を見ることができたのはさらにうれしいことでした。

市総体に先立ち、6月15日(水)に校庭で、全校生徒で壮行会を行いました。壮行会は、選手が主役のようにですが、看板を書いてくれた美術部、選手の入退場曲を演奏してくれた吹奏楽部、規律があり心のこもった応援をしてくれた応援委員会、それに応えて息を合わせて手拍子してくれた生徒たち、会を運営してくれた生徒会本部の誰もが主役であって、「想う」気持ちのあふれる素晴らしい会です。この会に参加すると、東中のことがもっと好きになります。

この会で「自律」について話をしました。試合に臨むということは、対戦相手もいるのですから、思い通りにならないことの繰り返しです。引退をかけた総体となればなおさらですが、負けてしまう恐れや、思い通りにプレーできない不安から、応援の声や激励の声さえ、耳ざわりになってしまうこともあります。でも、その中で自分の目標を見失わずに試合を進めていくこと、冷静に周りの状況、応援してくれる人の「想い」を理解し、熱い「想い」をもって笑顔で前に進んでいくことが大切になるのです。市総体の各会場で、部活動を通して成長した東中生の姿を見ることができました。

どの部活動にも、まだまだ頑張ることのできる時間があります。東中生のさらなる成長を期待しています。だれもが、それぞれの未来に結びつけるように。



新たな生徒総会



5月30日(月)、生徒総会を行いました。コロナ禍であるこの2年間は、代表者による生徒総会でしたが、今年度は全校生徒が参加して実施しました。とはいえ、全校生徒が体育館に集まることはできませんので、体育館と各教室をつないでリモート形式で行いました。

驚いたのは準備の手際良さで、猪股先生が暑さ対策の扇風機等を用意してくれている

間に、昼休みの時間だけで、放送委員を中心に体育館のセッティングが完了しました。会が始まり、体育館にいる生徒会本部等の生徒と各教室の生徒がつながっている様子は、何か新しい時代の幕開けのような気もしました。体育館から投げかけた言葉で各教室から拍手がおきる。ただ画面を見ているのではなく、場所が違っていても想いを重ね結びつこうとする一体感を感じました。採決もアンケートフォームでとる等、こういった取組は、これからの時代を生きていく生徒たちには必要な経験なのだと思います。

無言清掃について、意見を交換しましたが、日常生活を大切にしようとする今年度生徒会の願いを、全校生徒が理解しながらの議論でした。スローガンである「結翔 ～新たな東中のカタチ～」を見事に表現した生徒総会でした。



一步前へ 林間学校の成長

6月1日(水)、2日(木)、1年生が御殿場方面に林間学校に行ってきました。中学生活で宿泊を伴う行事は、修学旅行とこの林間学校だけです。1年生のスタートに行う林間学校には、個人の成長と共に、学年、学級の集団づくりという大切な意味がありますが、「深めよう絆 学ぼう団結力 ～一步ずつ前へ～」のスローガンのもと、1年生のやり遂げようと



努力する姿が見られました。

キャンドルサービスのスタンプは、どのクラスも短時間で準備したものとは思えないほど工夫がされていて、1年生のもっている力と入学してからこれまでの成長を確認することができました。

感染症がまだ心配な状況での実施でしたが、保護者の皆さんにご理解とご協力をしていただき感謝しています。